

プログラム名	<b>集まれ！地球の仲間たち！ ～動物から学ぶいのちのつながり～</b>	
実施団体	○団体名：宮城教育大学自然フィールドワーク研究会 YAMOI ○代表者名：斉藤 千映美 ○電話：022-214-3534 OFAX：022-214-3534 ○住所：仙台市青葉区荒巻字青葉 149 宮城教育大学 OE-Mail：csaito@staff.miyakyo-u.ac.jp	
対象者	主に小学生。そのほか、幼稚園、保育所、中・高等学校、市民センター、障害児・障害者福祉事業所など。PTA 行事にも活用できます。	
対象人数	1回につき最大40人まで	
学習場所	宮城教育大学構内で活動。実施対象の学校への出前も可能です。	
学習時間	45分～120分程度。対象学年に合わせた学習プログラムの実施が可能。（応相談）	
実施時期	春～秋（10月頃まで）	
準備物品・費用等 （講師謝金を除く）	利用者側	雨天に備え、屋根のある場所（出前講座の場合）。 餌やりする場合の餌。
事前打ち合わせ	要（場所、内容について）	
効果的な学習段階	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園・保育園</li> <li>・小学校低学年 生活科 内容（5）身近な自然を観察したり、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりなどする。（7）動物を飼ったり植物を育てたりする。</li> <li>・小学校中高学年 理科 第二分野 内容（3）イ動物が外界の刺激に適切に反応している様子の観察を行い、その仕組みを感覚器官、神経系及び運動器官のつくりと関連付けてとらえる。ウ脊椎動物の観察記録に基づいて、体のつくりや生まれ方などの特徴を比較、整理する。</li> <li>・小学校 道徳科 内容3（1）生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。（2）自然の偉大さを知り、自然環境を大切にすること。</li> </ul> ※学習指導要領の該当項目より	
学習概要	1. 学習のねらい	
	<b>動物とのふれあいや観察を用いたアクティブ・ラーニングで、記憶に残る生活科・理科・道徳の時間を！</b> ・ヤギ、ウサギ、ウコッケイなどの動物と実際にふれあう活動を通じて、生き物の特徴に興味を持ったり、人と動物のかかわりについて高い関心をもって考えたりする。 ・4つの学習プログラムの例を提案します。プログラムごとのねらいは以下の通り。 生活科（ふれあいプログラム）…生き物の特徴に興味を持ち、それを楽しく表現する。 理科（観察プログラム）…動物は過ごす環境や食べ物に適した体のつくりを有していることを理解する。 道徳（飼育プログラム）…動物飼育の計画づくりを通して、生命を尊重しながら関わり合う態度が育つ。 道徳（食と環境プログラム）…食の理解を通じて、生命を尊重する心が育つ。 ※普段から飼育に携わる学生スタッフにより、アレルギー及び安全面の配慮を十分に行います。	
	2. 学習する内容	3. 学習のポイント
	<b>〈ふれあいプログラム〉</b> 対象：幼児～小学校低学年 学習時間：45分～60分程度 ー基本的な学習の流れー ・整列、あいさつ（5分） ・動物に触る際の留意点の説明（5分） ・ヤギ、ウサギ、ウコッケイを用いたふれあい活動及び観察（20分） ・スケッチなどの表現活動（10分） ・まとめ、感想の発表（5分）	○ふれあいを通じて多様な気づきが生まれる。楽しむ中で自然への愛着が生まれ、活動を通して自分自身に自信が持てるようになる。  ○表現活動の例：スケッチ、作文、俳句など。時間が足りない場合は、事後学習として実施する。



学習概要	<b>〈観察プログラム〉</b> 対象：小学校中学年 学習活動：90分～120分程度 ー基本的な学習の流れー ・あいさつ、観察の視点の導入（10分） ・動物に触る際の留意点の説明（5分） ・ふれあい活動、ヤギの採食行動の観察（25分） ・気づきの共有とまとめ（5分）（休憩） ・ヤギや他の動物の骨格標本の観察（15分） ・グループワーク（歯の形と並び、それはなぜかを類推。それぞれの動物が好む環境について推測）（15分） ・意見の発表、まとめ（10分）	○動物の体の作りを比較し説明することができる。 ○食べるものと体のつくりの関係を理解する。 ○人間と他の動物の体を、観点を持って比較する事ができる。 ○多様な環境に適応した生物がそれぞれの役割を担っていることを理解する。
	<b>〈飼育プログラム〉</b> 対象：小学校中学年～高学年 学習活動：90分～120分程度 ー基本的な学習の流れー ・あいさつ、観察の視点の導入（10分） ・飼育の工夫について説明（15分） ・ヤギの飼育環境の観察（20分）（休憩） ・観察の振り返り（5分） ・グループワーク（動物の飼育計画を立てる）（20分） ・発表（10分）と気づきの共有、まとめ（10分）	○飼育の工夫の実践例を知り、よりよい動物飼育のあり方に関心を持つ。 ○その動物に適した環境を備えるために工夫することができる。 ○生きものとの共生に対する考え方を深める。
	<b>〈食と環境プログラム〉</b> 対象：小学校中学年～高学年 学習活動：90分～120分 ー基本的な学習の流れー ・あいさつ（5分） ・家畜に関連する諸問題について説明（5分） ・観察の視点の導入（5分） ・ふれあいと観察（25分） ・気づきの共有とまとめ（5分）（休憩） ・グループワーク（ヤギの畜産利用、もしくはヤギと環境）10分 ・気づきの共有（10分） ・まとめ	○家畜動物の歴史を知り、近年はヤギを見かけなくなっていることを学ぶ。また、畜産物の利用について、それらが生命を持っていることを理解し、畜産物の利用に当たって自分に何ができるかを考える。 ○ウコッケイ卵の調理、場合によって乳搾りも可能。
	4. 学習のまとめ	・生きものとの出会いは楽しく興味深いということ。 ・人は身近な生きものとの関わりの中で生活していること。 ・生きもの暮らしには、それぞれの種類に応じた環境が必要であること。 ・生きものはそれぞれが必要とする環境に対応した体のつくりや行動を示すこと。 ・生きものは環境の一部である。生まれ、成長し、死んだ後は地球にかえり、土を豊かにしたり人間の食べ物に形を変えたりして、生命は続いていくこと。 これら私たちの願いを、プログラムのねらいや対象者に応じて、「まとめ」の段階で導入する。
追加・変更できる学習内容	プログラムは改編して実施可能。 ・ヤギ乳搾り…晩春～初夏にかけて、できることがある（ただし実施場所は大学構内に限る） ・ウコッケイの採卵と試食…できることがある。	
事前・事後学習についての助言	小学校などでは一過的な活動にならないよう、事前事後学習をお願いします。	
雨天時の学習内容	荒天時は延期。小雨であれば実施できます。（実施に当たっては屋根付きの場所を確保）	